

ぐりふぁん letter



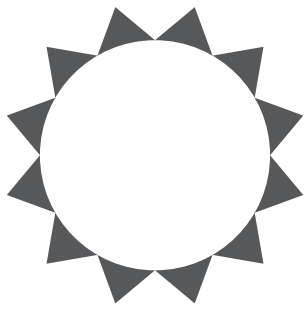
Vol.
26
2013.7

INDEX

- ◆ 城陽市立久世保育園おひさまプロジェクト
～おひさま発電所17号機が出来ます！～ . . . 2
- ◆ おひさま発電所合同自然観察会 . . . 3
- ◆ 東日本大震災からの復興 ～ いま私たちにできること . . . 4
- ◆ 福島県相馬市を訪ねて . . . 5
- ◆ 総会報告
きょうとグリーンファンド協力店紹介 . . . 6
- ◆ 会員さん、こんにちは
編集後記 . . . 7

認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)

きょうとグリーンファンド



城陽市立

久世保育園おひさま

プロジェクト

～ おひさま発電所17号機が出来ます！～

城陽市立久世保育園おひさまプロジェクトが始まりました。城陽市立久世保育園は、城陽市が地域住民の要望に応え、1970年に開設した公立保育所ですが、2003年に設置したおひさま発電所3号機(清仁保育園)と4号機(清心保育園)と同じ社会福祉法人清仁福祉会の保育園で、ご縁を感じると共に清仁福祉会のお考えに敬意を表したいと思います。

「温暖化が今なお進む中、未来にどのような社会と自然環境を残すのか、私は子どもたちからも生き方を問われているような気がします」と園長先生。このプロジェクトは、初めて施設所有者は城陽市という公設民営の園に設置されます。周辺の自治会連合会や校区の社会福祉協議会の賛助も得て、文字通り地域ぐるみで取り組んでおられることに、私たちは、新しい広がりを感じています。

(きょうとグリーンファンド 大西 啓子)



「城陽市立久世保育園におひさま発電をつくろう」の取り組みについて

・・・津留康守さん

城陽市立久世保育園(運営 社会福祉法人清仁福祉会)でおひさま発電設備設置の事業がきょうとグリーンファンドの協力を得て2013年3月から始まりました。久世保育園の取り組みについて特徴をあげてみます。

ひとつは、おひさま発電設備導入が保育理念と結びついていることです。久世保育園では、食育や自然との関わりを重視した体験的な活動に取り組んでこられました。これをさらに「環境の大切さ」を体感できる保育環境づくりへと発展させ、保育の充実を目指していることです。このことが「参加者」の熱心な取り組みを促すことになり、地域にも広がっています。保育園では、職員が、計画段階から、学習会を積み重ね設置意義の理解を深めてこられました。年度末・年度初めと多忙な中、職員のみなさんは、事業開始の作業に精力的に取り組まれてきました。また、保育園園児を対象にした環境啓発の腹話術(きょうとグリーンファンド提供)が園で上演され、大変好評で子どもたちも大満足な様子でした。



ふたつは、市の関係機関や清仁福祉会の理解・協力はもとより、地域のみなさんの協力活動が旺盛に行われていることです。これには、久世保育園が、「地域に開かれた保育園」として運営されてきた歴史があります。事業計画を進める中で、地域の社会福祉協議会・自治会連合会が、「地域の子どもの育ちの場を充実させよう」という思いから賛助を決め、「おひさまプロジェクト」チラシを6000世帯に配布する活動などに取り組まれています。



また、地域の要求により開設となった市立保育園で、保護者会の活動も活発に行われてきた歴史があります。それは、5月26日の「おひさま発電をつくろう」の集いに、卒園したOBや保護者OBのみなさんが「集い」を盛り上げようと、出店や遊び、「みんなで歌おう」などの企画を担当・運営されたことにも現れています。



これから、設置資金協力の要請活動の継続やおひさま発電設備設置作業、点灯式の準備が進められていきます。「久世保育園におひさま発電をつくろう」の取り組みが強まり、広まっていくことを願い、8月の点灯式を待ち望んでいます。久世保育園へのボランティア活動の一員として。

おひさま発電所合同自然観察会 in 京都御苑



昨年度の「エコ会議」から提案された、おひさま発電所となっている保育園・幼稚園12園とおひさまプロジェクトが進行中の久世保育園の先生を対象に、京都御苑で自然観察会をしました。講師は、きょうとグリーンファンド理事長の板倉さん(京都精華大教授)。梅雨入りして天候が心配でしたが、当日は程よい晴れ、暑くもない観察日和で、14名の先生方が参加してくださいました。

講師の「今日は童心に戻ってください！」との話から、散策開始。ソメイヨシノの実を食べたり、「ウバメガシはウナギの蒲焼に使う備長炭になります。」といった話があったり、リスやアカネズミが食べた後のマツボックリを拾ったり、巣穴近くにとまっているアオバズクを観察したり・・・、普段同じところを歩いていても、絶対、気付かずに通り過ぎていたんだろうな、と思いながら進んでいきます。

芝生の広場では、虫めがね片手に腹ばいになって観察をします。映画「ミクロの決死圏」ワールドです。皆さん、まさしく童心に戻って小さな虫などを発見しています。小さな草花もアップで見ると、愛おしくなります。「うっかり歩けない、踏んでしまうから」と言っていた先生もいらっしゃいました。

そして、その日に集めた、花や葉っぱや木の実を透明なCDケースに収めます。自分だけの標本の完成です。



最後にネイチャーゲームのひとつ、「カモフラージュ」をしました。腰くらいの高さの生垣沿い約15mをロープで仕切り、その間に小さな人工物が置かれています。自然の中にある人工のものを見つけるのですが、それがなかなか見つけれない！

初め一人で、声を出さずに数えていきます。15個？ 18個？ まだ足りない。21個・・・
正解！やった～！大人だって正解すれば嬉しいものです。

参加してくださいました先生方からは、楽しかった、またやって欲しい。子どもたちにも体験させたい、などの感想をいただきました。好評につき、秋にもまた開催したいと思っています。

板倉さんも、次は、もっと時間をかけ(あつという間に時間が過ぎます)、充実した研修にしたいと張り切っておられます。乞うご期待！

(きょうとグリーンファンド 深川 佳子)



緑いっぱいの御所の中で過ごす時間は、本当に不思議がいっぱい、初めて知ることがいっぱい、とても楽しかったです。葉っぱのブツブツが、虫たちが住んでる家だったり、近くでよく見ないと気が付かないことがたくさんあるのだなと改めて感じました。自分が自然に関するいろいろな知識があることで、子どもたちと遊ぶ時に教えてあげたり、見せてあげることができ、子どもたちの自然に対する興味も更にふくらむのではないかと思います。(K先生)

いつもの場所でも、しゃがんだり見上げてみると、いつも見えなかったもの、気が付かず通り過ぎてたものが見えてきました。虫めがねをもって寝ころぶとさらにワクワクして、ミクロの世界にどっぷりつかっていました。少しの知識が入るだけで世界がぐんとひろがり、ぐんぐんと楽しくなりました。今日みたいに子どもたちとワクワク森の中に探検に行けたらいいなと思いました。(S先生)

☆ 参加された方の感想 ☆

東日本大震災からの復興 ～いま私たちにできること

きょうとグリーンファンド 理事 藤野 正弘

あの日から2年数か月が経とうとしています。関西に住んでいるとすっかり過去のこと、他人ごとになっているかもしれませんが、被災地は復興どころか復旧もままならない、福島では今も人々が闘っているという現実にしたのは、今年3月の東北旅行の時でした。

私は東日本大震災直後に官民で設立された京都災害ボランティア支援センターのセンター長として合計9回のボランティアバスを運行し、主として気仙沼の大島を中心に活動しました。そんな関係もあり、センター閉鎖後も被災地から京都に避難してこられた方々を支援する活動を個人的に行ってきました。「活動した場所はどのようになっているだろうか、復興のお役にたったのだろうか」、そんな思いを抱きながら当時のボランティア仲間と再び東北の地を訪れたのは、2012年8月、活動から1年後でした。道端のがれきの山は低くなっていましたが、それ以外は1年前とほぼ変わらずという光景があちこちで見られました。「我々の活動は何だったのだろうか」と涙ぐむ人もいました。我々にはできることは現地にお金を落とし少しでも経済が回るようにすることだと、復興商店街を訪ねたりたくさんのお土産を買ったりしました。2度目に訪れたのは今年の3月でした。南三陸町や大島のがれきはすっかりなくなっていました。まだ更地のままのところは大部分でした。

写真は、南三陸町防災庁舎、30人以上の職員がこの屋上に避難したのですが、津波が引いた後残ったのは10人だったという悲劇の場所として知られていますが、2年たった現在では鉄骨にまわりついたがれきこそ除去されていますが、周り一面は何も建っていません。ここが町の中心部だったとは思えないほどです。

それにもかかわらず、現地で出会った人々の中には少しづつ前を向いている人もおられるようにも感じました。震災当時のことを涙ながらに語ってくれた宿の女将さんは、島の女性たちが少しでも収入を得られるようにと自宅の離れを工房として提供しています(この工房の運営は京都の女性たちが行っています)。亘理町(宮城県)では同じく女性たちの雇用の場として袋物を作る工房を立ち上げ、WATALISというブランドにまで成長させた女性にも話を聞くことが出来ました。

一方3日目に立ち寄った福島市では重たい話ばかりでした。線量計を片手に地元の方に半日案内して貰いましたが、行く先々で基準値を大きく超えていました。福島県のHPには全県の放射能測定マップが載っています。ホームセンターでは線量計が山積みされていると聞きました。郊外の住宅街では、住宅の除染作業の真っ最中でした。除染した土はブルーシートに覆われて庭に置かれたままでした。

そんな状況を目の当たりにして、関西に住む我々は何ができるかを考えてみました。

1. 被災地に行ってみる

まずは行ってみてください。現地を見て空気に触れてみてください。何もがれき撤去作業などしなくても、行くことだけで十分です。被災直後は物見遊山は控えましたが、「観光ボランティア」という言葉もあります。現地に行き、美味しいものを食べ、お酒を飲み、うんとお金を落としてください。それが復興への手助けになります。

2. 京都に避難されてきた方々

今でも京都には1000人以上の人が避難されてきています。その多くは小さな子どもを連れた若いお母さんです。自主避難者と呼ばれ福島だけでなく、茨城や東京の方もおられます。二重生活による経済的負担、家族や友人と離れ離れになっているという精神的負担など、想像できないほど苦しんでおられます。そんな人たちをサポートしようと、京都でも多くの人たちが活動しています。そういう人たちに手を差し伸べて貰えればと願っています。

3. 忘れないこと

報道も日増しに少なくなっています。現地の人々が「忘れられるのが怖い」と口々に言われます。被災地には行けない、活動はできないとしても、せめて関心を持ち続けてほしいと思います。「忘れないこと」、これなら京都にいてもできることではないでしょうか？



南三陸町防災庁舎 (2011年5月撮影)



南三陸町防災庁舎 (2013年3月撮影)

福島県相馬市をたずねて

4月28日、29日、事務局3人は相馬市にできたNPO法人そうまグリーンアークを訪ねました。震災と原発事故以降、初めてです。NPO法人そうまグリーンアークは、私たちきょうとグリーンファンドにとって何だか「息子」のように思える存在。

そもそも、2012年3月、「きょうとグリーンファンドのようなおひさま発電所を相馬にもつくりたい」と菊地さんという若い漁師さんが、事務所に訪ねてこられたことから、メールや電話でのやり取りが始まりました。相馬では菊地さんが中心となってNPO法人「そうまグリーンアーク」を立ち上げる一方、市内の保育園・幼稚園などを対象に設置施設を募集した結果、建物の強度、追加工事の必要性、屋根の形状などそれぞれに課題があり、候補施設の決定には至っていませんでした。

そんな時、「設置施設が見つかりました」という連絡が入り、顔合わせ・現地調査をかねて相馬市を訪問したわけです。

皆さん私たちの息子世代でしたね。津波・地震、どのくらい続くかわからない放射能との付き合い…。震災後2年余り、その間どんなことがあって、どう過ごしてきたのかを、ポツンポツンとした話の中から拾ってつなぎ合わせながら想像しました。そして、そこから自分たちで立ち上がらなければ、と覚悟を決めた若い人たちを、きょうとグリーンファンドはどのくらいお手伝いできるでしょうか。菊地さんは、代々相馬の漁師。「とうほく復興カレンダー2012.10.31」に登場しています。(http://re-tohoku.jp/)

◆漁港に面したホテルみなとやさんに泊って

菊地さんが「眺望で選びました」と予約して下さった松川浦のみなとやさんは、道を隔ててすぐに港(だった)風光明美な場所にありました。施設がすべて流され、防波堤の先端にあった灯台も流された港。目の前に広がる穏やかな海からは、想像もできない津波当日の様子を女将さんは、話して下さいました。DVDの映像と共に。

「この辺りの人たちは、海の様子がよく見えるので、すぐに裏山に避難して無事な人が多かった。だから、割合平気でお話出来るんです。津波が押し寄せた方向がまともではなかったの、この建物も1階だけの被害で何とか収まった。でも、その片付けときたら、漁網が絡まって…」と話が続きます。直接その場にいなかった私たちも、胸がドキドキ。お話いただいてよかったのか、と恐る恐るお礼を言いましたが、大丈夫だったみたいです。



みなとやの奥さんと一緒に

◆みなと保育園

みなと保育園理事長さんのお話を聞きました。

門のすぐそばまで津波が迫ってきたこと、子どもたちを工事用のはしごで屋上に避難させたこと、3歳以下の子どもたちは先生たちがおぶって、3歳以上の子どもたちは、みんなで励ましながら一人で上ってもらったこと、屋上で雨が降る中、歌を歌いながら長い時間過ごしたこと、助けに来てくれたみなとや

さんのマイクロバスが目の前で流されたこと、大きな船や家がどんどん流れていったこと、全員無事で家族に引き取られるまでには暗くなってしまったこと…。

どんなに必死な思いで子どもたちや先生方は屋上に上ったことでしょう。

「上がりますか」といわれて躊躇していた私たちは、怖がっていたら申し訳ないと、ほんとにこわごわ屋上に上がらせていただきました。保育園には太陽光パネルがついた「放射線の線量計」が設置されていました。園庭の土は削って、園庭に穴を掘って埋めてあるそうです。

こんな相馬で子どもたちは大人になっていくのかと思うと、胸がつぶれそう…。そしてこのみなと保育園は、建物の強度に課題があり、せめてものおひさま発電所は、設置がかないそうもありません。

(きょうとグリーンファンド 大西 啓子)



みなと保育園に設置された放射線モニタリングポスト



みなと保育園の屋上で理事長に当時の様子を聞く

2013年 総会報告

5月24日、2013年総会が無事終わりました。今年は、昨年と違って法律の改定に伴う手続きもなく、役員改選もなく、決算報告についても大きな問題は見当たらなかったため、スムーズに進行しました。事務局としては近年になく・・・、という感じでしたね。新しい会員さんにも出席していただき、マンネリ感？も払拭されたよう。

昨年度は固定価格買取制度が導入され、その制度を組み込んだ資金調達の枠組みで、南丹市美山町の田歌舎におひさま発電所10kWが完成しました。設備を設置する際の補助金がなくなり、今までとは違う考え方が必要になりました。発電した電気を一定期間高く買い取ってもらえる固定価格買取制度の原資は、言うまでもなく電力会社から電気を買っている私たち消費者が負担している再生可能エネルギー促進賦課金です。これをおひさま基金でさらに自然エネルギー普及のために活かすことは、賦課金の精神に見合う考え方ではないでしょうか。きょうとグリーンファンドの新しい枠組みであれば、設備の価格が下がったことと相まって、年々見直しが予想される買取価格に一喜一憂することなく、設置を続けていけるものと考えています。

17カ所目の設置をめざすおひさまプロジェクトも進行中、今年度は、街なかの省エネを進める新しい活動や、おひさま発電所同士の交流も進め、省エネと自然エネルギー普及の活動に、新しい気分を持ち込みたいと考えていますが、「財政基盤の強化」という長年にわたる課題は、相変わらず残りそうです。

(きょうとグリーンファンド 大西 啓子)



★ きょうとグリーンファンド協力店紹介 ★

きょうとグリーンファンドのパンフレットを置いていただいています。

vol.1 SOBA Cafe. さらざん

<http://www.sarrasin-kyoto.com/>

店名の“さらざん”は、フランス語でソバのこと。麺の蕎麦とはひと味違ったガレットのお店。デザートにも蕎麦を使ったものがいろいろ。蕎麦の可能性を広げてくれるお店です。深く広いそばの魅力によって、日本の畑と農業につながっていきたいと考え、活動されているそうです。「消費～加工～生産者を幸せにするそば事業」(四方よし)を目指しています。



〒600-8178
京都市下京区鍵屋町通
烏丸西入鍵屋町327番2
TEL: 075-201-3848



vol.2 HACOBU KITCHEN

<http://hacobukitchen.com/>

きょうとグリーンファンドの事務所のある事務機のウエダビル1階にあります。

新鮮で安心な食材をつかった、どこか懐かしくてやさしい味の、親しみやすい社員食堂のようなカフェ。ゆったりとした音楽と、ぬくもりのある空気の流れる店内は、都会の喧騒を忘れさせるやすらぎの空間です。冬にはペレットストーブも…。

ケータリングサービスでは、あたたかくてやさしい料理とともに、食べる楽しみと大切さをはこんでいます。



〒600-8191
京都市下京区五条通
高倉角堺町21番地
jimukinoueda bldg. 1F
TEL/FAX
075-343-5252

会員さん、こんにちは！

新しい会員さんをご紹介します。
五条高倉角のきょうとグリーンファンド事務所に、わざわざ訪ねて来られて、会員になってくださった方が相次ぎました。
事務局一同、うれしくて、うれしくて、感動！

はじめまして。亀岡の小さなお寺、真福寺の住職満林晃典です。ここ6年ほどお寺の電力をグリーン電力証書による100%自然エネルギーで賄ってきました。が、わかりにくいシステムを檀家さんに説明するもの「?」、説明するこちらは今イチ「?」。「グリーン電力」からお寺の新しい一歩へ展開できず、また新しい関係が生まれることもありませんでした。お寺から「100%自然エネルギー」の看板を外して、ぐりふあん参加に変更したのは、人と人とのつながりが見えるところが一番の理由です。個人的には長い間キューバに興味を持っていて、このファンドの趣旨とは違うかもしれませんが、ある時はあるだけ使う、ない時はないなりに楽しく暮らすというキューバ人のしなやかさが好きです。このファンドに関わることによって、「生きる」ことの一部であるエネルギー消費について関心を持ち続け勉強させていただきたいと思います。どうぞよろしくお祈りします。

・・・満林晃典さん

会員の皆様、はじめまして。新しく入会しました齊藤和夫です。小生早や、今年で古希を迎えようとしています。30有余年、環境保全に関わる公務員の経験を生かすべく、環境ボランティアとして、京エコロジーセンターのエコメイト・エコサポーターとして、ピオトップづくり、こどもエコクラブなどを楽しみながら活動して参りました。現在は、左京区岩倉でアカマツ林とマツタケ復活、そして里山再生を目指して、週2~3日、汗を流しております。

さて、2011年3月11日の東日本大震災は、人類史上未曾有の大惨事となりました。地震と津波、そして原発事故の重なったものとなりました。原発事故は未だ終息の兆しは見えません。原発事故発生周辺地域は、半永久的に復興はないと思われまます。

現在、国民の10人に1人が原発の50km圏に住むようになってしまいました。小生の住む京都市左京区も、北部はこの範囲に入ります。地震大国・日本の原発導入は失敗であることが証明されたわけです。原発に不安を持っていた小生は、子どもが小さい頃、心配でヨウ素剤を買い、今でも冷蔵庫の中で保存しています。

小生は、今回の大事故で、改めて原発の恐ろしさを知り、安全なエネルギー確保のためには、再生可能エネルギーの利用を促進し、原発依存率を下げるしかないと思います。個人レベルで直ちに行動可能なことは、自宅に太陽光発電機器を設置することであり、ようやく昨年12月に固定価格買取制度を利用して設置しました。国民一人ひとりの力で全ての原発を停止・廃炉にし、この掛け替えのない国土を保全したいものです。

きょうとグリーンファンドの活動は、将来を背負う子どもへの環境教育に大きな役割を果たしています。全面的に賛同する者です。会員を増やしましょう。

なお、昨年設置しました太陽光発電機器の現在(5/24)の発電量1,652kWh、CO2削減量710kg、自給率42%です。

・・・齊藤和夫さん



編集後記

・相馬から届いた「松前漬」やどんこ（エゾイソアイナメ）ボール。原材料はノルウェーや北海道産。加工は相馬の若者やおばちゃんたち。この現実をしっかり受け止めて、何をすべきか見極めたいと思います。(K.O)

・梅雨らしくない梅雨で、雨が降ったと思ったら台風の影響…。今まで通りといかないところが、気候変動らしい。でも梅雨がなくとも紫陽花が咲いてくれていると、ホッとします。(Y.F)

・まずは行ってみてください…理事の藤野さんの言葉におされて被災地へ。仙台から気仙沼までJRとBRT（バス高速輸送システム）を乗り継いで4時間。車窓から、分断された鉄橋、何もない町(だったところ)、がれきの集積地、被災地の現実が迫ってきました。復興商店街では、“よく来てくださった”のこぼれに胸を熱くして…おみやげもいっぱい買いました。(S.K)

《 ぐりふあん日誌 》

- | | | |
|---|---------|---|
| 2012年 | 3/5 | 向日市議杉谷伸夫さん来室、
おひさまプロジェクトについてヒアリング |
| 12/18 GPN幹事会 | | 京都CSRプラットホーム松岡さん来室、取り組み事例の
webページについて協議 |
| 12/22 「伏見をさかすなごっこつばらん⑦」参加:伏見区役所 | 3/6 | サークルおてんとさん(清水さん、宮田さん)・
おおさかパレコープ(武田さん藤永さん)来訪 |
| 2013年 | 3/7 | 「伏見をさかすなごっこつばらん」チーム見学会
:向島保育園 |
| 1/10 韓国の大田忠南緑色連合(テジュンチュナムグリーン
コリア)の高校・中学生19名来訪、
春日野園、つし保育園を見学 | 3/12 | 再生可能エネルギー情報交流会:キャンパスプラザ |
| 1/11 竹村光世さん(100人委員会)ヒアリングに来室
企業向け3つ折りパンフレット、藤野さんと打ち合わせ
京都民報取材 | 3/14 | NEOS木田さん来室 |
| 1/16 GPN幹事会 | 3/17 | 「チェルノブイリ・フクシマの集い」参加、 |
| 1/18 企業とNPO協働のフェスタ:四条烏丸・きらっ都プラザ | 3/21 | 久世保育園、環境腹話術 |
| 1/19 「伏見をさかすなごっこつばらん」チーム打ち合わせ | 3/23 | 「伏見をさかすなごっこつばらん⑩」参加:伏見区役所 |
| 1/24 京都生協で事例報告 | 3/27 | 事務局会議 |
| 1/26 「伏見をさかすなごっこつばらん⑧」参加:伏見区役所 | 3/29 | 第93回理事会 |
| 1/30 「伏見をさかすなごっこつばらん」チームキックオフ
:伏見区役所 | 4/08 | 再生可能エネルギーWG会議 |
| 1/30 環境市民「ノーマルメディアを戦略的に使いこなす
コソ」参加 | 4/23 | 京都グリーン購入ネットワーク幹事会 |
| 1/31 労働災害保険について労働保険事務組合TSC京都
栗山信一郎氏来室 | 4/25 | ソウル市担当者あけぼの保育園を視察 |
| 2/1 中国環境NGO、公害地域再生センター9名訪問、
陵ヶ岡保育園へ見学
企業向け3つ折りパンフレット、藤本さんと打ち合わせ | 4/26 | 陵ヶ岡保育園自然観察会(京都御苑) |
| 2/5 おおさかパレコープ12名来訪、
妙林苑、夢窓幼稚園を見学 | 4/27 | 「伏見をさかすなごっこつばらん⑪」参加:伏見区役所 |
| 2/8 第92回理事会 | 4/28-30 | NPO法人そうまグリーンアーク訪問、
活動紹介と現地調査 |
| 2/12 NEOS木田さん・加藤さん来室 | 5/11 | 京グリーン電力運営協議会終了総会 |
| 2/18 京都グリーン購入ネットワーク幹事会 | 5/15 | 再生可能エネルギーWG会議 |
| 2/19 第2回エコ会議開催:京エコロジーセンター | 5/16 | 大宮保育園 環境腹話術 |
| 2/20 再生可能エネルギーWG会議 | 5/21 | 監査 |
| 2/22 京グリーン電力運営会議 | 5/24 | 第94回理事会
2013年総会、講演会 |
| 2/23 「伏見をさかすなごっこつばらん⑨」参加:伏見区役所 | 5/25 | 「伏見をさかすなごっこつばらん⑫」参加:伏見区役所 |
| 2/28 久世保育園職員研修 講師:豊田陽介さん | 5/26 | 久世保育園「おひさま発電の集い」参加 |
| 3/2 自治会&NPOおうえんシンポ出展:イオンモール | 5/31 | GPN幹事会 |
| | 6/1 | おひさま発電所合同自然観察会(京都御苑) |
| | 6/18 | 陵ヶ岡保育園 環境腹話術 |
| | 6/20 | 熊本県ヒアリング調査 |
| | 6/22 | 第9回「近畿の環境団体情報交流会」事例発表 |

□ 寄附のお願い

おひさま基金への寄附は随時お受けしています。
寄附の方法:ゆうちょ振替をご利用下さい。

ゆうちょ銀行振替口座番号:00930-6-157817
加入者名:きょうとグリーンファンド

★2010年5月1日付で国税庁から認定NPO法人として再認定されました。
認定NPO法人への寄附は、税法上の特別措置の対象になります。

会員数 78

正会員 48 賛助会員 27

法人会員 3 2013/6/30現在

認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)

きょうとグリーンファンド

〒600-8191 京都市下京区五条高倉角塚町21 事務機のウエダビル206
TEL/FAX ; 075-352-9150 E-mail ; info@kyoto-gf.org
URL ; http://www.kyoto-gf.org (火～金 13:00～17:00)

